

なな

7月号
vol. 113



巻頭特集

なな
隣保館

「ピンピンに干されたTシャツ」
西成区橘2丁目付近にて撮影

とたり 隣保館

昨年12月にオープンした「スマイルゆ〜とあい」は西成発の民設民営隣保館。それはセツルメントに由来し、貧困、孤立・差別、排除など複合的・重層的な課題を抱えた住民に寄り添いながら、これらの困難に取り組む隣保事業を行ってきました。このような拠点施設が減少しつつある昨今、『なび』は大阪府内をはじめ全国の隣保館ルネッサンス活動に励む「おとなりさん」を訪ね、ええとこ取りをしていきます。

おとなりさんプロジェクト
飯島・西田・若松・佐々木

おとなりさん④ 尼崎市立地域総合センター上ノ島 かみのしま

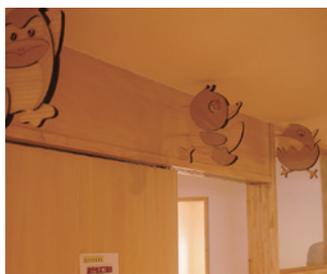
かつては全国に1000館余りあった隣保館も、現在では800館と大きく減少。その発祥は民営のセツルメントであったが、その後公設公営、指定管理者制度による公設民営を経て、さらに大阪市では市民交流センターが今年3月に廃館、と公の撤退が進んでいる。しかしここに至って原点回帰するかのようになり、大阪市内では「住民立」の民設民営隣保館が生まれている。今回伺った「尼崎市立地域総合センター上ノ島」もこうした大きなうねりの中にある。財政難に伴う公立施設の適正化が押し進められていくなかで、保育所の民営化を契機として、隣保館を核としたまちづくりのため地域立の社会福祉法人を創設したところに、上の島地域の特徴がある。

地域立の社会福祉法人「いきいきのびのび」

尼崎市の財政再建に向けた合理化の内実は、「同和对策事業の見直し・縮小廃止」「個人施策の廃止」「施設職員の削減」「地区施設(老人福祉センター分館、青少年会館、公民館分館)機能の総合センターへの統合」である。また、公立保育所については民間移管という方針が出され、現存する公立保育所のうち9カ所の保育所を「必要」と判断し、他の公立保育所は民間移管を実施。その結果「公立保育所をこれまでにも削減した上で、さらに削減すると9カ所となり、そこには上ノ島保育所が入っていない」(川面千鶴江・上の島支部女性部長)ことになった。上の島支部は尼崎市と協議する定例会を設置し、協議を図った。最終的には、保育所民間移管の受け皿として地元が社会福祉法人「いきいきのびのび」を立ち上げることになり、その他にも隣保館・青少年・高齢者機能の統合、保育所の園庭広場の地域活用、上ノ島保育所の成果の継続などが取り決められた。

保育所問題を機に 地域内施設の再編を

保育所問題は同時に、地域内施設の再編ということを含んでおり、当然、隣保館のあり方や改装計画にまで議論は広がった。上ノ島コミュニティエリア計画では「総合センター1階の保育所部分を高齢者機能と青少年機能をもつ施設に造り替える」「保育所は近隣に新築する」「園庭については地域の広場として利用し、保育所の利用も可とする」などが上の島支部集会で決定された。同計画は、総合センターに各機能を集約化することにより、高齢者から子どもまで幅広い層を対象にした人権尊重の地域コミュニティの拠点機能の充実を図っている。支部、青年部、女性部、地元の保育士等と大学やまちづくりのコンサルが連携・協働して保育所民営化を契機に、隣保館及び地域施設の再編を目指したのが、上の島地域のまちづくり計画である。



(左上) 地域総合センター上ノ島の玄関ロビー (左中) 地域総合センターのグラウンド (右) 地域総合センター上ノ島 (本館) の外観 (下段左から) 地域総合センター上ノ島 (本館) の外観、わくわく保育園の外観、わくわく保育園の内観、いろんな飾り付け



2015年度より改称

運動と事業を両立するための体制を整備

さらに、同計画決定後、地元は行政と協議の場を設けて、同計画を実現し地域マネジメント活動の実践を図る、いわば運動と事業を両立させる活動体制を整備した。上の島まちづくり会議のもと、まちづくり会議事務局(事業推進会議)や実態調査(地域の声・実態を知る)・保育(地域子育て)・センター(総合センターの機能統合)・コミュニティ拠点、生活支援拠点としての隣保館をつくりかえる取り組みの部会を設けたり、さらにまちづくりを計画的に進

めるために支部と尼崎市との月1回の「まちづくり定例会」(行政との調整会議)を開催したり、と計画の実現に向けて活動してきた。こうした活動が重要なのは、活動のなかでソーシャルキャピタル(社会関係資本)の発見や人材の発掘、新たなネットワークの形成がなされ、さらに支部活動がまちづくりという見える形で住民に提示できるところにある。

隣保館を核としたまちづくりは始まったばかり

尼崎市との調整会議、支部と尼崎市とのまちづくり定例会で決まったとおり、保育所は総合センターの南側隣地を尼崎市が購入し、地元の社会福祉法人「いきいきのびのび」が指定管理者として運営する「わくわく保育園」が2015年4月に開所した。総合センターは15年度から条例改正により「地域総合センター上ノ島」に名称を改め、事業と運営管理は指定管理者制度へと移行された。その指定管理を受託したのも「いきいきのびのび」である。また、地区施設の再編については現在、閉館となった青少年会館が総合センターの2階

を間借りしている状態が続いている。総合センター1階の改修による間借り状態の早期解消と高齢者や障がい者の居場所の確保が急がれている。

周辺地域の混在化の影響

上の島のまちづくりは、文化住宅やマンション、一戸建て住宅の建築による新たな住民の流入という環境変化も考慮する必要があった。上の島地域は尼崎市北部の中心、阪急電鉄神戸線塚口駅南西に文化住宅やマンション、一戸建てが混在する住宅地帯に位置し、人口は約4,000人、世帯数は約1,800世帯。古くから米作・麦作は「小作」がほとんどであったが、第2次世界大戦後の農地解放以降、自作農が多くなった。60年代の高度経済成長期には宅地化・混在化が進行した。さらに現在では、相続税問題も絡んで、文化住宅からマンションや一戸建て住宅への建て替えが活発化、人口流入も一層激しくなった。「子どもがどのような状態なのかかわからない、若い人がどこで就労しているかわからない」(川面千鶴江・上の島支部女性部長)

教育への熱意が地域の財産

長)。地域住民との「つながり」が共有できないほど地域が大きく変化し、地域の面からも隣保館をコアとした「ふるさとづくり、まちづくり」が課題となっている。

上の島地域は昔、「わらざうり」「しめなわづくり」が盛んで、「その収益は農業に匹敵」(川面茂樹・所長)するものであった。「三文の油を焚いて三文の仕事、一文の損でも仕事の利が得」というほどに勤勉に働き、そして教育熱心。明治のころ、自立への願いを込めながら、自分たちの子ども

もの成長を願って住民立の学校「公木校」を開設している。この流れは脈々と現在もなお継承されている。地域の大学生を中心とする10数名の青年が子どももの低学力を克服するため、「自主的に中学生の勉強会を開設し、この勉強会が後の上の島部落解放研究会につながる、上の島支部結成への原動力となっている」(川面茂樹・所長)。

隣保館機能のさらなる充実をめざして

総合センターは現状においてもまちづくりの拠点として隣保館機能を充実させている。事業のメニューは豊富にあり、相談事業、啓発事業、各種講座、施設の開放、上の島文化祭、地域との協働事業に取り組んでいる。なかでも「のびのび活動」は小・中学生を対象に、宿題や好きな遊び、プログラムに参加して過ごす活動や定期テストの学習支援活動を行っている。地域の中学校と青年部の連携による理科実験教室「マッシュルーム」は、化学・科学の世界を子どもたちに身近に感じさせ、興味関心を引き出すユニークな取り組みだ。



尼崎市立地域総合センター上ノ島所長 川面茂樹さん

隣保館の中核となる相談事業は、生活・就労・教育と分野横断的な生活相談が主であり、なかでも長期的・継続的な支援を要する相談者に応じた継続的相談援助事業では、毎月1回、保健・福祉・介護等の関係機関とケースカンファレンスを開いている。

地域との連携・協働事業としては、「福寿会」と連携した週1回の昼食の配食事業を行い、高齢者の見守り活動を行っている。また広域的な地域交流事業の産地直売活動として「生き活き市」を開催している。

文責：飯島照喜



部落解放同盟兵庫県連上の島支部女性部長 川面千鶴江さん

きんこん がこん

ver.1.1

教育に取り組んでいるのは学校だけじゃない!小中高のほかにも地域の教育事業で活躍する団体・施設・仕組みを紹介していきます。

13時 題目:西成教育サポート6校連絡会



地域の取り組みに、子どもとともに参加

30年以上前に結成した 地域と学校の協働体制

西成教育サポート6校連絡会は多くが未解決になっていた教育課題について、地域の青少年の健全な育成・人権感覚豊かな人材育成のため、諸団体が連携し地域の教育力向上に向けて協力・協働することを目的に、1983年7月に「西成7校区連絡会」として結成されました。教育課題に地域全体で取り組むために、学校、PTA、保育所などの保育・教育関係の組織に加え、長橋、北津守、松之宮、梅南、津守校区の連合振興町会をはじめ、部落解放同盟西成支部などの地域の多様な団体で構成されました。これまで何度か名称を変更してきましたが、15年度に梅南小学校と津守小学校が統合することに伴い、「西成教育サポート6校連絡会」(通称「6校連絡会」)に名称変更しました。ひと昔前は毎週会議を開いて議論を重ねてきましたが、現在は第2木曜日に事務局会議、第4木曜日に連絡会を行い、地域と学校

の情報交換を進めています。 教職員に地域の事情を 知ってもらう取り組み

活動の内容は多岐にわたりますが、西成区北西部の学校・保育所に赴任してきた教職員に、地域に固有の教育事情・環境を知ってもらう活動が主になっています。たとえば、教職員の方々を対象に「地域のこれまでの活動」や「今後、地域が学校と連携



よみかき教室へ学習パートナーとして参加

していききたいこと」さらに長年学校にご協力いただいたいる識字教室「よみかき教室」についての学習会を行っています。また、昨年度から、赴任3年目の教職員を対象とした「3年目研修」を実施しました。「赴任3年目」というのは、日々のお仕事のなかで子どもたちの生活の場すなわち地域の事情がわかり始めてこられる時期に当たるからです。



昨年度の「3年目研修」の様子

いずれにせよ、地域の精通者や実践者と直に話し合ってもらうことで、「何かを感じてほしい」と願って取り組んでいます。その他にも障がいを持っている子どもが地域で職業体験をして、地域や企業との関わりを深める「プレジヨブ活動」、保護者の思いを聴く学習会や交流会、その他にも様々な活動を行っています。活動のすべて

学校と地域、一緒に考えて 取り組むことが最大の強み

6校連絡会では、このような取り組みを進めています。一番大事なことは、月に2回の会議で学習会などの企画を一緒に考えて実施することです。そうすることで、「学校にはどんな課題があるのか」、「こんな取り組みがあれば、困っている子を応援できる」、「こんな取り組みがあれば、子どもを連れて行くことができる」という流れが生まれます。これこそが6校連絡会の最大の強みです。現在、実施している「にしなり☆子ども食堂」も、教職員との話の中で始めることになりました。今日現在も、学校は様々な課題を抱えた子どもを支援していますが、学校だけに任せるのではなく、地域としてどう連携して取り組んでいくのが求められています。

レポート: 沖田一志
寺嶋公典

【寺嶋公典】有名スポーツ選手が「楽しくない」ので団体を辞めた。別の団体の破格の条件も「続ける自信がない」ので断った。今、何をしたいのか楽しそうに考えてる姿がとても新鮮に感じた。

ナイスな仲間たち

『なび』をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

一般社団法人Me2 VOL.27 就労支援センター アスラクト



7月号も引き続き、A'ワーク創造館内で活動する団体のご紹介です。制度の狭間で福祉制度からも労働市場からも抜け落ち、生きづらさを抱える人々を応援しようと始まった就労支援センター アスラクト。事業統括の三宅さんに説明いただきました。

ホームレス支援と 障がい者就労支援のコラボ

一般社団法人Me2 (ミー・トゥー)

は、ホームレス支援や障がい者の就労支援に携わってきた団体、個人が2012年に立ち上げた法人です。その背景には、現場の声があります。1つはホームレス支援現場から、「若年化や低学歴化が進んでいる」「精神疾患、発達障がいなどの疑いのある方が増加している」という声。もう1つは障がい者支援現場から、「就労移行支援事業所はたくさんあるが、実績に繋がりにくい障がい者への支援を優先させる傾向がある。このままで良いのか?」「障がい者の就労支援制度やノウハウを活かせないか。」という声です。

働く力や意欲がありながら、障がいのため、或いは学歴や成育環境、サポート体制の欠如により、既存のレールや労働市場から抜け落ちたり、福祉制度の狭間に陥り、結果的にニートやホームレス状態にある



(左) 調理実習風景 (右) 作業訓練の様子



『手帳を持たない障がい者』への支援の仕組みをつくりたいと、2013年4月から「就労支援センター アスラクト」(就労移行支援・就労継続支援B型)をオープンしました。

『明日(asu)』x 『construct (構築)』

アスラクトは『明日(asu)』と『construct (構築)』イイチからつくっていくの造語で、ゆっくりでもいいから小さな積み重ねで『明日を創る』、そんなサービス機関になりたいと名づけました。利用者の年齢層は二〇代から五〇代と幅広く、ほとんどの方がひとり暮らしで、様々な課題を抱えています。でも皆さん、「働きづらさ」や「生きづらさ」を経験されてきたからこそ、思いやりや助け合いはピカイチで、アスラクトは同じような課題をもつ仲間が集う「居場所」にもなっています。

活動内容では、清掃や商品の組立、DM作業など作業訓練が中心ですが、保護費が支給されると一週間で所持金ゼロ、暑さ寒さです



(上段左から) 手打ちうどんとさんまの糧ぶし、作業訓練の様子、グループワーク 健康体操 (下段左から) 作業訓練の様子、グループワーク 餅つき、グループワーク スマホの使い方

ぐに体調を崩してしまう、食事はいつもコンビニ弁当という利用者も多く、月一回の調理実習など日常生活(生活リズムや食生活、金銭管理など)に必要な力をつけることも重視しています。

あなた「らしく」を応援する 『ish』も開設

また、2015年4月に天王寺区上本町に、社会とのつながりを失っている不登校や引きこもりがちな若者を対象とした「支援センター ish (イッシュ) (自立訓練・就労移行支援) もオープンしました。

私たちはこれからも「制度の狭間」にいる方々にサポートをあて、必要なサポートを提供できればと願っています。興味をお持ちの方は、ぜひご連絡ください。お待ちしています。

文責：三宅 嘉美

就労支援センター アスラクト

大阪市浪速区木津川2-3-8 A'ワーク創造館1階
電話・FAX : 06-6567-0032
Mail : asuruct.me2@gmail.com



[谷口円] 先日仕事で障がい者アートに取り組む施設の撮影に行ったのですが、その場に流れる「それぞれ」を「そのまま」受け入れる空気と、のびのびとした雰囲気が、とても印象に残っています。



[田岡秀朋] リオ五輪まであと1か月。ルセル大統領不在の緊急事態で開催されるようだが、東京五輪もあと4年。福島原発の汚染水、新スタジアム、不正買収などなど他人事ではない。



[飯島照喜] 雨のち曇り、ときどき晴れと心もようつらとくると変化する水無月。空模様は自分を重ねてみると、ずーっと仕事の雨が降り続く、「もっと遊びを」と自分を励ます今日この頃です。



今月の花:あさがお
 花言葉「はかない恋」「固い絆」「愛情」
 朝に花を咲かせ、昼にしばんでしまう様子を「朝の美人顔」に例えた「朝のかおばな」の意味であるとされている。



熊本大地震の被害を受けた益城町出身の人が身近にいました。いつも少しずつお金を預かり頑張って貯めていた人です。家族は全員無事だったようですが、家は全壊したようです。さっそくこちらで飛行機を手配し、故郷に帰られました。お見舞い金と物品を持って帰ることができました。自分で貯めたお金で、恥じることなく故郷に帰れてよかったですと感謝していただきました。良かったです。熊本がんばれ〜 (なんばひとみ)

hidorimaki

ぼの細道



5月末から6月の始め、火星の地球接近を見る。新月の前後なので月の影響が少なく、木星より目立っていた。

夏星に食らいつきたる上弦の月

五月闇更地の主となる黒猫

夏星に食らいつきたる上弦の月

月痩せて朱の星太る衣替え

温低が陽光ささえぎる薄暑なり

火の星が水の星に迫り夏きざす

い湯かげん

教育無償化とは「カネ」も「テマ」も惜しまないこと

打ち明けた話、ボクの歩んできた社会運動では、教育無償化とは「貧富」の問題、すなわち「貧しくて学校へ行ける」ということだった。今は、教育無償化とは「多様性」の問題、すなわち「どんな人も学べる、学び直せる」ということへと進化している気がする。

先日、おおさか維新の政策通の演説を聴いた。演者は「幼児から大学院まで完全無償化する。それから先は自分でやっつもらう機会平等主義が維新の無償化」と歯に衣を着せなかった。吉村大阪市長が、5歳児の無償化を実施し、3歳児まで広げると公言した時にはさすが維新と共感

したが、機会平等主義には呆れてしまった。どうもこの党の政策は深くない。人によっては数百万円とも言われる「奨学金債務」が社会問題化して、にわか給付制奨学金導入が国会でも議論され始めているのは、雇用危機が背景にある。自民党も給付制を言い出し、維新は大学無償化で、野党もあまり違わない軽さで相乗りし、問題は財源だと、議論は一人歩きしている。

政治の舞台での教育無償化の議論には、不思議なことが四つある。一つは、雇用危機を背景にした大学の無償化と言うのなら、大学に行かない若者への就労支

援や職業教育も同時に粗上に乗せないアンフェアだが、どの政党もそこは言わない。二つは、合意が整ってきている高校無償化だが、通信制高校が単位取得に偏っていることから、「学び直しのための「サポート校」等の無償化の補完措置が議論されるべきだが、まったく話題になっていない。三つは、同じく、義務教育課程に生じた不登校問題についても、「フリースクール」の義務教育算定という補完措置は、無償化議論から完全に抜け落ちた。国会では「かえって不登校を増やす」なんて暴論まで出た。四つは、大阪市は幼児教育無償の対象から認可外教育施設を外して、外国人との共生を遅らせた。

援や職業教育も同時に粗上に乗せないアンフェアだが、どの政党もそこは言わない。二つは、合意が整ってきている高校無償化だが、通信制高校が単位取得に偏っていることから、「学び直しのための「サポート校」等の無償化の補完措置が議論されるべきだが、まったく話題になっていない。三つは、同じく、義務教育課程に生じた不登校問題についても、「フリースクール」の義務教育算定という補完措置は、無償化議論から完全に抜け落ちた。国会では「かえって不登校を増やす」なんて暴論まで出た。四つは、大阪市は幼児教育無償の対象から認可外教育施設を外して、外国人との共生を遅らせた。

教育無償化とは、ボクなりの解釈では、「カネを惜しまない」ではなく、「テマも惜しまない」だと思ふ。だから、外国から来た日本語のできない幼児も、不登校になってフリースクールに通う児童も、通信制高校で学び直しを始めた生徒も、はたまた支

風呂あがり

商店街どおりから一本折れて、小さな路地の大きな水溜りをよけながら奥に入った突き当たりの、アパートの一室6畳2間。

汗にじむ日々が続くお風呂で暑さをさあと洗い流すのが幸せのとき。このアパートのお風呂は、きつとこよりもデカくていろんなのが楽しめる、地域の銭湯だ。毎日、違うところに行ってもいいし、近所の顔の知れたところもいい。こだわりは、シャワーの勢いと、あがった後ゆっくり出来ること。

いつもの様に、風呂あがりのデザートを楽しんでいると、ある女性とおばあちゃんがやってきた。別々に暮らす2人だけけど、「一人じゃ心配やから」と娘さん。親子で一緒にやってきたみたい。また別の男女がやってきて、別れて入っていったと思うと、お互い息ピッタリにあがってきて、目配せしてスツと帰ってゆく。

一人でサツとすますのとは一味違う、日常のひとつがとても心地いい。

たの 3くほろたま

6 畳 2 間



休日は、自転車に乗って汗を流すのが楽しみで、淀川沿いを京都まで行って戻ってきます。気持ちのいいコースをいろいろ開拓中！毎年、春先には既に一皮剥けてしまう僕の腕。(安田拓也)

い湯かげん

援学校を卒業してももつと学びたい知的障害者も、通常の教育課程から外れても、テマを惜しまない、その社会的合意を得るのが教育無償化ということだ。だから、いきなり財源は？なんて先走らず、「カネ」は国や自治体でも、「テマ」はNPOや市民活動でできることがあることに注目すべきだ。にしなり隣保館でも、高校中退者等のための「マナビバ」が実施されている。残念ながらフリースクール法案は国会には提出されなかったが、NPO等を支援する地方の条例を積み上げて、義務教育課程算定の法律を求めていくのも良いかもしれない。

援学校を卒業してももつと学びたい知的障害者も、通常の教育課程から外れても、テマを惜しまない、その社会的合意を得るのが教育無償化ということだ。だから、いきなり財源は？なんて先走らず、「カネ」は国や自治体でも、「テマ」はNPOや市民活動でできることがあることに注目すべきだ。にしなり隣保館でも、高校中退者等のための「マナビバ」が実施されている。残念ながらフリースクール法案は国会には提出されなかったが、NPO等を支援する地方の条例を積み上げて、義務教育課程算定の法律を求めていくのも良いかもしれない。



株ナイス代表取締役 富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「い湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[若松司] あるテクノポップユニットのライブに行く、いわゆる「黄色い声援」を耳にしな。「セクシーさとは異なる「女性」の魅力ってなに？」という問いが心地よく身体に響いている。

[西田吉志] 年々、夏の日差しを避けるようになってきたかも。10代、20代は海やプールやBBQで日焼けをするのが「夏」だったのが、今は夜店や花火が中心になって日焼けをしなくなった気がする。

にっし 飯ユラ

メシ

4軒目

『くらし食堂』



ミシュランならぬ“飯ユラン”。匿名でなく飯島(だから飯(メシ)ユラン)が「店主がおもしろい」、「店の客が楽しい」、「料理が、味がおいしい」の3つの「い」を基準に、西成区内の飲食店などを紹介します。

「料理はそこそこまい、価格もそこそこ、私がよく利用する定食が食べられる居酒屋、いわば食堂と居酒屋の、また日替わり定食だけでなく、“西成を食する”ことができる二毛作の店がくらし食堂である。

日替わり定食を中心にしながらも、洋食、中華、そして和食とメニューが多彩。オーナーシェフの白石さんは、学校を卒業すると同時に、「誘われるままに、コックとして福岡のドライブインに」と料理人の第一歩を地元福岡からスタート、そして関西へ。京都、大阪でフレンチ・イタリアン料理を中心に修行して6年前に西成へ。多彩なメニューは、こうした40年以上の料理人としての経験からくるもので、日替わりメニューでも月曜日は豚、火曜日は鳥、水曜日は牛と、曜日によってメニューを決めている。「肉系が中心なのは、魚を好まない、米にあったボリュームのあるのが好まれる」。西成という土地柄を反映したメニュー構成となっており、いわば

くらし食堂を通じて「西成の食生活」がみえてくる。昼と夜の二毛作で、「西成の今」がみえてくる。昼間は三分の一以上が高齢者と利用者のほとんどが固定客。夜は「ここはカラオケの激戦区、高齢者はカラオケに行くため、ここでの利用は少ない」。超高齢社会にある西成、高齢者の過ごし方がくらし食堂を通じて見えてくる。外国人が多いのも西成。「最近中国人、韓国人の若者が多くなっている」。近隣の語学学校の立地を反映し、そこの若者が来店するようになってきている。

超高齢化、来訪する多数の外国人など、世の中のトレンドが凝縮されて、西成のくらし食堂でみえてくる、そんな二毛作の食堂である。

くらし食堂

場所: 西成区鶴見橋2-12-30

電話: 06-6562-1222

営業時間: 11:30~15:00、17:00~21:00

(日・祝日休)

あとがき

子どもの写真、動画などのデータ保管に何を使っていますか? BlueRay や DVD を使ってると要注意です。紫外線や温度で劣化、変形してディスクが読めなくなったり、規格変更で読取り機器の入手が困難になる可能性があります。我が家では別々の外付けハードディスク2台に同じデータを保存しています。いろいろ考えて、この方法に落ち着きました。(沖田)